

今改めて、地道な「実践」を！

一般社団法人 大阪生活サポート協会 理事長 安本 伊佐子

平素は、当一般社団法人大阪生活サポート協会（以下、当協会という。）に格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、このたび当協定会時社員総会におきまして、新たに3人の新理事を加えて6人の理事が社員各位の承認を得まして就任いたしました。その後理事会の決議により、理事長及び副理事長が選任されました。

今後、当協会の会員並びに事業所のニーズに対応した事業実施に努めたいと考えています。皆様方からのご意見、ご要望をお寄せいただきますようお願いいたします。

◇ ◇ ◇
令和8年6月17日に改正民法が成立、成年後見制度の見直しが行われます。障がい者本人の意思を尊重する方向へと変わります。これまで、障がい者本人の最善の利益をおもんばかり、支援者（家族、後見人等）等の代行者が決定してしまうことがありました。

障がい者一人ひとりには自身の意思があり、自ら決定する力があります。意思形成し意思表出するまでの支援のプロセスは、一人ひとり異なります。意思決定支援の前提は、日頃からの障がい者本人との信頼関係の構築であることを肝に銘じておきたいものです。

当協会の会員数は1万1008名、約15%が60歳以上であります。「生活サポート総合補償制度」においては高齢化対応を検討する必要があるでしょう。

運営団体別の会員数をみると、社会福祉法人の運営する事業所利用の会員数は全体の約81%であります。1201ヶ所で、事業所の運営団体は社会福祉法人が約43%、それ以外の特定非営利団体・株式会社等8団体を合わせて約57%であります。

◇ ◇ ◇
今や、入所施設の利用者数より地域に在るグループホームの入居者数が上回っております。安心・安全な地域生活を実現すべく障害福祉サービスが用意されていますが、その実態については改善すべき課題が多々あります。日々利用する事業所等では常態化した人材不足、定着しない人材、良質のサービス提供を担保するための専門性の欠如など不安材料が山積しています。

大阪の福祉を振り返りますと、実態を把握し「実践」を重んじる大阪人の気概・姿勢が窺えます。当協会は「実践を重んじ、実践に学び」をモットーに、障がい者一人ひとりが自らの希望する地域で安心・安全に「自分らしく生きる」の実現に向けて、事業を展開させていきたいと考えています。

副理事長就任のご挨拶

社会福祉法人 みきた福祉会
みきた作業所 施設長 阪口 勉

このたび、一般社団法人大阪生活サポート協会の副理事長に就任いたしました、阪口勉でございます。身の引き締まる思いと同時に、その重責に身を律する日々ですが、当協会のさらなる発展と、障がいのある方々が住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせる社会の実現に向け、誠心誠意努めたいと考えています。

近年、地域で生活される障がい者の方々は、施設で暮らす方々を大きく上回っております。福祉人としての私たちの役割は、「生活のしづらさ」を抱えた方々が、自分らしく、健康に、いきいきと暮らすことのできる環境づくりに少しでもお役に立つことと思っています。

障がいや判断能力に不安を抱える、お一人おひとりの意思決定を尊重し、尊厳と権利を守り続けるために、これまで先輩方が築いてこられた信頼の基盤を大切に受け継ぎながら、多様化するニーズや時代の変化にも柔軟に対応できるよう努めてまいります。理事長をしっかりと補佐し、会員の皆様や現場の皆様とのつながりを深め、現場の声を原動力としたより信頼される協会運営に尽力いたします。もとより微力ではございますが、皆様の温かいご指導とご協力を心よりお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。





新理事による 施設訪問記

社会福祉法人 四条啜福社会 津の辺

～働く喜び・健康づくり・地域交流を通して、一人ひとりの豊かな生活を支える～

この度、当協会理事拝命にあたり、初仕事として、こちらの紙面での自己紹介をとのご連絡をいただきました。今回は、ただの自己紹介ではなく、新たに就任した理事3名による「他己紹介」とのこと。私は大東市にある生活介護事業所「津の辺」の施設長・上原文裕理事を訪ね、事業所を見学しながらお話を伺いました。

津の辺では、生産・創作活動として、地域企業から受託したいくつかの軽作業や自主製品づくりのほか、地域清掃や散策も大切な活動とされています。受託作業では、ホームセンターなどの店頭で見かける商品の梱包を行っています。また、自主製品では、さをり織りによる作品や小物製作、時期によっては栽培から手掛けている藍の葉を使った草木染め、紙すきでは受注による名刺作成のほか、数種類の製品づくりにも取り組まれています。これらの活動をいくつかの工程に分け、お一人おひとりが役割を持って取り組まれている姿が印象的でした。ご利用者・支援者の皆さんの様子からは、やりがいや達成感、ものづくりを楽しむ喜びが伝わってきました。

屋外活動では、神社や公園での清掃による地域社会の一員としての役割を担い、また、近隣の緑地や車で出掛けた先での散策により、健康の維持・向上にも重点を置いているそうです。四季を感じながら心身をリフレッシュする時間も大切にされています。上原理事からは、福祉に携わるきっかけにまで遡ってお話を聞かせていただきました。阪神・淡路大震災の被災地へ職員を派遣することになった現法人から、その間の手薄な現場の応援依頼を当時それまで行事のボランティア程度の関わりの大学生だった上原理事が引き受け、支援現場に入ったことが始まりだそうです。振り返ると、その時の周囲の職員の方々から大学生の青年への羨望の眼差しを感じることはあったものの、ご本人は福祉職を強く意識していたわけではなかったそうです。それでもある時、福祉を志してからというもの、年月は流れ、今では障がい者支援にどっぷり浸かっておられます。

そのほかにも、コロナ禍に見舞われた頃の事業所の状況、ご利用者の日中活動などさまざまな変更をせざるを得なかった悔しさ、現在の福祉業界が直面している人材採用の難しさにも話が及びました。朗らかで柔らかな口調で話される中にも、ご利用者支援や事業所運営の話になると、目の奥に熱い情熱が感じられました。また、互いに共感しながら話す中で、実は私の専門学校時代に、系列の「なわて更生園」での実習からつながるご縁があることなど、お忙しいところ私の思い出話まで聞いていただきました。

これからは協会理事として一緒にできることを心強く感じるとともに、互いに学び合ひながら、大阪の障がい福祉のさらなる発展に向けて歩んでいけることを楽しみにしています。



●書いた人
特定非営利活動法人 だんでらいおん 統括施設長 辻 正晃



日時：令和9（2027）年1月24日（日） **集まれグループホーム開催のご案内**

場所：ホテルアウィーナ大阪

大阪市天王寺区石ヶ辻町 19-12

詳しい案内は当協会のホームページ（「大阪生活サポート協会」で検索） トップページ「お知らせ」に10月下旬～11月上旬頃に掲載の予定です。ご確認ください。

令和8年度「ホームページ作品展示コーナー」及び「作品展示会」の作品募集中

大阪生活サポート協会では、会員（本人）の表現活動支援の一環として、会員（本人）の皆さんからの素敵な作品を毎年募集しています。（締め切り：10月末）
今年の作品展示会は令和9（2027）年2月23日（火）から26日（金）までの4日間、国際障害者交流センターで開催予定です。詳しくは当協会のホームページ（上記参照） トップページ「お知らせ」をご覧ください。



この度、理事に就任された松本施設長が勤務される社会福祉法人武田塾 障害者支援施設 高井田苑を訪問させて頂きました。最寄り駅から高台の住宅街を歩いていくと山腹に広がる敷地内にあり、開所して27年目を迎えます。その隣には、児童福祉法に繋がる法律の制定に尽力された武田慎治郎氏が正15年に武田塾（現在の児童養護施設）を創設されて、法人が今年11月で100周年という節目の年ということをお聞きしました。長らく連綿と受け継がれる法人の理念、「共に在る」が法人の支柱として、「子どもや利用者」と、「家族」と、「職員」と、そして、「地域」と「共に在る」を実践されてきたことがお話の節々から伺えました。昨年武田塾から高井田苑施設長への異動となり、100年目におられる施設長としての今の心境などを伺うと、「ご利用者、ご家族、職員、そして地域に感謝です」とのことでした。そして、節目となるからではなく、毎日毎日を、日々の些細な利用者のニーズに応えるべく、安心して穏やかに過ごして頂くために、生活環境を更に充実させ整え、職員のチームワークもより良くするために連携・共有が更に図れるよう努めていると意気込みを語られていました。現在、入所定員が40名で全居室が個室対応でフロアをユニットに分けて、居住環境の工夫をされていると感じましたが、リフォーム等も含めてまだまだ居住環境の高みを求められているようです。日中活動の定員が50名と現在、活動場所も館内に留まることなく、地域にも展開して事業所を開所していますが、日中活動を更に充実させるために、新たに事業所を開所したい思いを熱く語られています。また、中には高齢化しつつある利用者の活動内容、日課の見直しなどにも触れ、個別に利用者ニーズに添えるよう支援したい思いも仰っていました。とは言え、施設長という立場は苦勞の連続です。そんな中で、松本施設長の楽しみごとを最後に聞いてみました。即答で「行事です！」と思わず笑いを誘いました。普段と異なる食事が提供される行事はご利用者にとっては大きな楽しみの一つです。そんな場面で施設長自らが鉄板台で焼きそばなど調理するのが楽しみと仰られたのが、親近感を感じる方だなあと、これから同じく就任した理事として協会を盛り立てられればと感じて帰って来た施設訪問でした。



●書いた人
社会福祉法人 四条啜福社会 津の辺 施設長 上原 文裕



社会福祉法人 武田塾 高井田苑

100周年の節目に「共に在る」理念を次代へ繋ぐ

特定非営利活動法人 だんでらいおん

100周年の節目に「共に在る」理念を次代へ繋ぐ

このたび、特定非営利活動法人だんでらいおん（大阪市東住吉区）を訪問し、法人の概要説明を伺い、事業所見学を行いました。

法人の特徴として、理事長が積極的にICT導入を推進しており、見守りセンサー（呼吸・心拍・睡眠深度の把握）、カラー高画質の見守りカメラ、排泄センサー（AIカメラによる排尿量・排便判定、顔認証の導入可能性）、I C O C A・W A O NなどのF e l i c a規格と連携した勤怠管理など、最新技術を活用した支援体制が整備されています。

生活介護の活動では、地域や車で出掛けた先での散策に加え、内職として弁当店のチラシ折りとポスティングを行うなど、地域とのつながりを大切にした日中活動が展開されています。

短期入所については、「情報提供によるニーズの掘り起こし」を重視しており、地域の利用者・家族に寄り添った姿勢が感じられました。

職員育成では、法人内他事業所の上司をメンターとして配置する制度を導入し、組織全体で人材育成に取り組んでいます。

法人の歴史として、20周年記念誌を拝見しましたが、利用者から家族へのサプライズ贈り物企画が好評で、機関紙にも掲載されたとのこと、温かい取り組みが印象に残りました。今回の訪問では、辻施設長が施設案内と事業説明を担当してくださいました。施設長は、能登半島地震の際に災害派遣職員として障害者支援施設で応援活動に従事した経験を持ち、災害時支援の専門性と現場感覚を兼ね備えた方です。説明は丁寧で、表情も柔らかく、気さくで謙虚な人柄が印象的でした。見学中も、ICT導入の背景や支援の意図を一つひとつ分かりやすく解説してください、支援の質向上に対する真摯な姿勢が伝わってきました。だんでらいおんは、ICTを積極的に活用しながら、地域とのつながりを大切に、利用者の意思形成支援やチャレンジング行動（試し行動や周辺症状）への理解を深めるなど、総合的な支援体制を構築している法人です。

今回の訪問を通じて、職員一人ひとりの専門性と温かい支援姿勢、そして地域福祉を支える強い使命感を感じることができました。



●書いた人
社会福祉法人 武田塾 高井田苑 施設長 松本 孝行



令和7年度 大阪生活サポート協会 収支計算書 (単位: 円)

科 目	予 算 額	決 算 額
1. 収入の部		
①会費収入	24,865,200	26,357,830
②助成金収入	200,000	420,000
③受取利息収入	93,000	141,766
<収入の部 計> ①+②+③	25,158,200	26,919,596
2. 支出の部		
事業費		
通信運搬費支出	200,000	133,918
支部活動助成金支出	5,000,000	5,565,974
スポーツフェスタ支出	300,000	300,000
知的障がい児者ソフト大会	250,000	235,000
就労・生活支援事業支出	2,000,000	1,571,735
研修会支出	400,000	0
広報費支出	1,200,000	495,748
グループホーム (実態調査)	350,000	0
表現活動支援	2,500,000	2,668,205
雑支出	20,000	39,600
①事業費支出計	12,220,000	11,010,180
②管理費支出計	15,301,000	13,824,410
③法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000
④固定資産 (什器備品) 取得支出	199,100	199,100
<支出の部 計> ①+②+③+④	27,790,100	25,103,690
3. 予備費支出	230,000	-
当期収支差額	△ 2,861,900	1,815,906
前期繰越収支差額	0	31,751,330
前期繰越収支差額調整額	31,751,330	0
次期繰越収支差額	28,889,430	33,567,236

令和7年度 「生活サポート総合補償制度」 決算書

科 目	予 算 額	決 算 額
預かり保険料	243,366,700	253,102,600
会費 (制度運営費)	24,865,200	26,357,830

令和8年度 大阪生活サポート協会 収支予算書 (単位: 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額
1. 収入の部		
①会費収入	26,656,500	24,865,200
②民間助成金収入	0	200,000
③受取利息収入	50,000	93,000
<収入の部 計> ①+②+③	26,706,500	25,158,200
2. 支出の部		
①事業費		
通信運搬費支出	200,000	200,000
支部活動助成金支出	5,500,000	5,000,000
スポーツフェスタ支出	300,000	300,000
フレンドシップソフトボール大会支出	250,000	250,000
集まれグループホーム支出	2,200,000	2,000,000
研修会支出	300,000	400,000
広報費支出	1,000,000	1,200,000
グループホーム (実態調査に向けての) 予備調査等支出	500,000	350,000
表現活動支援支出	3,000,000	2,500,000
雑支出	50,000	20,000
①事業費支出計	13,300,000	12,220,000
②管理費支出計	15,379,000	15,301,000
③法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000
④固定資産 (什器備品) 取得支出	0	199,100
<支出の部 計> ①+②+③+④	28,749,000	27,790,100
3. 予備費支出	250,000	230,000
当期収支差額	△ 2,292,500	△ 2,861,900
前期繰越収支差額	0	31,751,330
次期繰越収支差額	△ 2,292,500	28,889,430

令和8年度 「生活サポート総合補償制度」 予算書

科 目	予 算 額
預かり保険料	254,301,700
会費 (制度運営費)	26,656,500

令和8 (2026) 年度定時社員総会開催
令和8年6月16日

令和8月6月16日に大阪府社会福祉会館内で開催されました。すべての議案が承認されました。令和8～9年度の役員は以下とおりです。

- 理事長 安本伊佐子 (社福) 和泉つくし福祉会 理事長
副理事長 阪口 勉 (社福) みきた福祉会 みきた作業所 施設長
理事 榊 皇雄 ジェイアイシーウエスト株式会社 会長
理事 上原 文裕 (社福) 四条囀福祉会 津の辺 施設長
理事 松本 孝行 (社福) 武田塾 高井田苑 施設長
理事 辻 正晃 (NPO) だんでらいおん 常務理事兼統括施設長
監事 吉川 喜章 (社福) 障友会 理事
監事 菱川 幹人 学識経験者

令和7年度 事業報告

令和7年度は、①組織の運営として令和7年6月10日付けにて、「一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会」から「一般社団法人大阪生活サポート協会」に名称変更を行いました。②会員 (本人) 支援としては、作品展「大阪生活サポート協会 作品展展示会～わたし RA-SHI-KU2025」を開催し、すべての応募作品を掲載した「作品録」を発行しました。③「集まれグループホーム」を開催、令和6年度の参加は8事業所でしたが、17事業所 (事業所・主催・来賓 158名) と大幅に事業所数が増えました。④アンケート調査の実施「集まれグループホーム」参加事業所に対して実施。データは少なかったがグループホームの実態について、課題の一端を認識することができました。⑤支部活動等助成事業については46支部から申請がありましたが、1事業所が辞退となり、最終45支部に助成を行いました。(総助成額 5,175,304円) ⑥相談支援体制の強化: ホームページを窓口とした「なんでも相談コーナー」、「電話相談」による会員及び家族等へのサポートを継続、相談件数は「なんでも相談コーナー」38件、「電話相談」142件、総件数180件でした。

令和8年度 事業について

会員 (本人) 参加型事業を推進します。また地域における「余暇支援」の在り様を考えます。支援者支援としては、GH世話人等の実践報告会を地域密着型で企画します。同時に参加困難な支援者対象にオンラインによる研修等の実施も検討します。当協会の目的の一つは、「生きづらさ」を抱えた方たちが自分らしく、健康に、生き生きと暮らすことのできる環境づくりに向けた「いとなみ」を継続することであると考えます。未実施の状態が続いているグループホームの実態把握を地域の暮らす障がい者の権利擁護の観点からも調査は実施したいと考えています。(世話人業務、世話人研修、金銭管理・親亡き後の問題など)

RA-SHI-KU (らしく) 第8号 令和8 (2026) 年9月
発行人 安本 伊佐子
発行所 一般社団法人 大阪生活サポート協会
〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館内
TEL 06-6764-6889 FAX 06-6770-5988
E-mail kyokai@osakasupport.or.jp www.osakasupport.or.jp
編集 安本伊佐子 榊 皇雄 松山 茂美 制作
北岡 仁美 柳澤 正博 中垣 千曉 ハンドレッドラボ(株)

●編集後記●大阪生活サポート協会の理事体制が令和8年度は4名から6名となり、新しい理事として3名の方をお迎えすることとなりました。皆さん50歳代、豊富な経験と各施設長という立場で指導・活躍されている方々です。当法人の今後の事業展開に関しましても、有意義なご意見、ご助言をいただけるものと期待しております。新しい理事体制になった「大阪生活サポート協会」を今後とも、よろしくお願いいたします。(松山)